

令和6年度 浜松市国語科研究部 第2回研修会 全体会報告

日時 令和6年8月1日（木）9時30分～16時00分

会場 浜松市産業展示館

研修内容

（1）講演

対話的で深い学びに向かう国語科授業づくり
～自らの学習を調整し、学び方を学ぶ子どもを育てる～
常葉大学教育学部 中村孝一 氏



○中教審「答申」に示された課題とは

学力についての課題

- ・判断の根拠や理由を明確にし、自分の考えを述べること
- ・情報を的確に理解し、自分の考えの形成に生かすこと

国語科の課題

- ・文の構成を理解したり、表現の工夫を捉えたりすること
- ・複数の情報を関連付けて理解を深めること
- ・根拠の明確さや論理の展開、表現の仕方について評価すること

○論理的な思考力・表現力の育成に向けて

自分の考えと、それに対する根拠や理由付けを意識させること（主張・根拠・理由づけの三点を意識させる）

○主体的な学びとメタ認知・学習の自己調整

子供は無意識のうちに、自問自答しながら自己調整をしている。授業でも以下のような自己調整を設けることが大切である。

- ・粘り強さを発揮してほしい内容を明確にし、自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動や振り返り活動を取り入れること
- ・学習を調整しようとしている子供の意思を見取るために、児童生徒に自己調整の仕方を教え、自己調整の意思を言語で表現できるようにすること

（2）指導講評

「言葉の力」を育てる

魅力的な国語科単元の創造

浜松市教育センター指導主事 松本真美子 氏

○子供たちが学びを調整するために、子供に委ねる

- ・見通しを持ったり、自分の状況を把握したりする場を設定すること
- ・学習方法を教えたり、学習環境を整えたりすること
- ・教師は、子供の学びの伴走車になること
- ・自分の考えを再検討する場を設定すること

